

興味あるお札との出会い

松浦 純子

王子に「お札と切手の博物館」がある。名前を見た時、これは小学生相手の博物館だと思った。大人相手ならもつと漢字が並んだ名称のはずだが、「無料」に弱い私は早速行ってみることにした。

八月上旬は小学生の親子連れが多い。今年は新札が発行されたこともあり、関心を引いたのだろう。夏休みの間は「手すきはがきづくり」という体験イベントもあり、小学生親子に交じって参加してみた。お札は長い間紙で作られてきた。すぐ破ける紙はお札には向いていない。製紙法が最初に改良されたのは後漢時代の中国で、世界最古の紙幣も北宋時代の中国で作られた。

私が博物館で見たかったのは、写真では見たことはあるが本物はまだ見えないお札だ。ガラスケースに入った貴重な紙幣は全て撮影禁止。明建国後まもなく発行された大明通行宝鈔は大きさを引く。何とA4サイズだ。王朝の名前や細かいところは違うが、デザインは元で発行された至元通行宝鈔にそっくり。王朝成立当初の混乱を避けるため民衆にとって馴染みのない紙幣のデザインに作り替えることはためられたのだろう。元では民衆は銅銭や貴金属ではなく紙幣を用いていた。

これと同様に面白かったのはイランで発行されていたパフレヴィー二世の肖像が描かれた紙幣だ。一九七九年に起きたイラン革命で国王は追放された。新しいお札を作るのが間に合わず、国王の肖像画の部分が、縄のような文様ですっかり覆い隠された紙幣が発行された。もちろん現在はホメイニの肖像画で、はっきりと分かる。

フランス革命の国民議会が発行したアシニア紙幣も是非見たかった。免税特権を持っていた教会や貴族の土地・館が民衆に襲撃された後、国有化した教会の土地を担保にして議会が発行したのが名刺サイズのアシニア紙幣だ。中央銀行として機能するフランス銀行はナポレオンが作ったので、それ以前の時期は誰でも貨幣を発行することが可能だった。小型のこの紙幣は十年足らずで使われなくなってしまった。

慌てて発行された片面印刷の紙幣も面白い。